

# 抗がん剤投与確認書

**胃がん**レジメン: SOX(TS-1・L-OHP)

患者名: \_\_\_\_\_ 年齢: \_\_\_\_\_ 歳 (ID: \_\_\_\_\_ ) レジメン確認薬剤師 印

体表面積: \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup> 体重: \_\_\_\_\_ kg 血清 Cr: \_\_\_\_\_ mg/dL CLcr: \_\_\_\_\_ mL/min

対象疾患: 胃がん(再発・進行)21日間/1コース

薬剤名	day1 . . . . . day15 . . . . . day21
エルプラット (L-OHP) 100 mg/m <sup>2</sup>	↓
TS-1 80-120 mg/日	←—————→ . . . . . 休薬

■ レジメン・マスタ登録用紙

セット名称 胃 SOX(L-OHP/TS-1) 頁 \_\_\_\_\_ 確認医師署名 齊藤・カ山

診療科名 外科 セットの概要 胃癌(公知申請あり)

管理コード \_\_\_\_\_ 投与量設定 L-OHP:100mg/m<sup>2</sup>、TS-1:80-120mg/日

セット区分 999 インターバル日数 21 (Day1から休薬期間を含めたレジメンの有効期間:この期間内に開始となるレジメンを追加オーダーすることはできない)

Rp	手技	投与経路	点滴速度/点滴時間	用法その他	(癌)	薬品名称	用量/単位	Day 1	Day 2	Day	Day	Day	Day
1	(点滴)	末梢ルートメイン	速度: 200mL/h 時間: 30分			ガスター	20 mg	10:00					
						デカドロン	6.6 mg						
						アロキシ	0.75 mg						
						生理食塩液	100 mL						
2	(点滴)	末梢ルートメイン	速度: 250 mL/h 時間: 2時間			エルプラット	100mg/m <sup>2</sup>	10:30					
						5% ブドウ糖注射液	500 mL						
3	(点滴)	末梢ルートメイン	速度: 200mL/h 時間: 30分			5% ブドウ糖注射液	100 mL	12:30					

< #TS-1 の投与量設定 >

\* TS-1: 1日2回、day1の夕食後~day15の朝食後

1.25 m<sup>2</sup>未満: 80 mg/日

1.25-1.5 m<sup>2</sup>: 100 mg/日

1.5 m<sup>2</sup>以上: 120 mg/日

《TS-1 休薬基準》

好中球数 1000 / mm<sup>3</sup> 未満(≥Grade3)、血小板数 5000 / mm<sup>3</sup> 未満(≥Grade3)

AST、ALT 施設基準値の 2.5 倍を超える(≥Grade2)、血清クレアチニン 施設基準値上限の 1.2 倍を超える

下痢、口内炎、手足症候群 ≥Grade2

・血小板減少 Day29 までに 75,000 / mm<sup>3</sup> 以上(≥Grade1)を満たさなかった場合:

エルプラットのみ 1 段階減量。但し、エルプラットの投与量が 50mg / m<sup>2</sup>の場合は、S-1 を 1 段階減量する。

・血小板減少 25,000 / mm<sup>3</sup> 未満(Grade4)、または、好中球減少 500 / mm<sup>3</sup> 未満(Grade4)、または、発熱性好中球減少 (好中球数 < 1000 / mm<sup>3</sup> かつ発熱 ≥ 38.0°C)、または、Grade3 以上の下痢、口内炎、手足症候群の場合:

エルプラットおよび TS-1 とともに 1 段階減量

・エルプラットの投与によると疑われるアレルギー反応/過敏症(≥Grade3):

エルプラットのみ中止

L-OHP : 100 mg/m<sup>2</sup> × 【           】 m<sup>2</sup> = 【           】 mg → 【           】 mg

TS-1 : 【           】 m<sup>2</sup> → 【           】 mg

<主な副作用と対策>

① 末梢神経障害②骨髄抑制③嘔気・嘔吐④下痢⑤高血圧⑥口内炎⑦皮膚毒性

<末梢神経障害時・L-OHP 対策>

- ・ Grade2 の末梢神経症状：エルプラット 1 段階減量
- ・ Grade 3 の末梢神経症状：エルプラットのみスキップ
- ・ Grade4 の末梢神経症状：エルプラット投与中止

<対策>

①冷たい物に触れるのを避ける②G-CSF③カイトリル（屯用で対応）  
④輸液・ロペミン内服⑤降圧薬使用⑥アズノールうがい液⑦HFS 対応

下痢：下痢があらわれ（73%注1）、60%注2）、脱水症状をきたすことがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には早期に止瀉剤などによる治療を考慮すること。重度の下痢が認められた場合には、電解質又は輸液投与及び本剤の投与中止や休薬を行うなど適切な処置を行うこと。

HFS：保湿クリーム、ステロイド軟膏で対応、詳細は、別紙参照

\* 血管痛対策 5%Tz 250 mL→500ml で対応

\* カイトリルパック<sup>®</sup>→アロキシ 0.75mg

平成 年 月 日

指示医サイン \_\_\_\_\_

指導医サイン \_\_\_\_\_

看護師サイン \_\_\_\_\_

- \* 投与量を確認するもので、指示書では有りません。
- \* 投与量を変更する場合は赤字で訂正、追加して下さい。

2011.11.14 作成

自治医科大学附属さいたま医療センター  
がん化学療法委員会、医療安全管理委員会